

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

琉球大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 2 名の臨時定員増を、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき 5 名の臨時定員増を、平成 27 年度に「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、さらに、平成 29 年度を期限とする 2 名の入学定員について、平成 31 年度までの期限を付した再度の入学定員増を実施した。

そして、平成 31 年度を期限とする 12 名の入学定員については、令和 2 年度・3 年度・4 年度に再度の入学定員増を実施した。

これを踏まえて、令和 5 年度の入学定員を、今回の定員増を行わなかった場合の 100 名から 112 名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても今回の入学定員増を踏まえ、定員増を行わなかった場合の 685 名から 697 名に変更する。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

沖縄県は、沖縄本島 133 万人、宮古島、石垣島に各 5 万人、久米島に 7 千人、その他 10 数島に 380～4,100 人、総人口約 146 万人の島嶼地域である。その島嶼環境における沖縄県の医療にとって、医師の不足や専門医の地域偏在化は深刻な健康・生活問題となっている。

昭和 56 年の琉球大学医学部開設から令和 3 年まで、毎年琉球大学医学部出身者の約 40～50%が沖縄県の医療に係わり、地域医療に貢献する医師の育成という医学部の理念を実践している。しかしながら、本県においても、都市部を除く地域においては、医師の不足や診療科偏在が深刻な問題であり、島嶼環境に即応した医療人の育成と言う点では、未だ不十分である。この問題の解決には、離島・へき地医療者の医学・医療の知識、技術の維持のため、先進的知識・技術の修得を継続して行う生涯教育が必要であり、かつ、医療者の労働・生活環境の改善に対応した施策を行うことが重要である。

県内唯一の医育機関である本学医学部は、離島・へき地での医師の充足を目的に平成 21 年度より、沖縄県の修学資金援助をうけて、地域枠学生の受入を開始し、段階的に増員して現在各学年 17 名の学生を推薦入試で受け入れている。そして、学部教育においては、地域医療の基礎となるオールラウンドの医療知識・技術が身につけられるよう、琉球大学病院各診療科、おきなわクリニカルシミュレーションセンター、沖縄県立病院の特徴を生かしつつ連携下に地域医療実習などを通して、総合診療や専門的技術の重要性を指導している。

このように、医学部の卒前・卒後教育の改革、地域枠の導入を行って、県立病院の充実を図るためのプログラムを構築している。しかしながら、沖縄県における医師の地域偏在・診療科偏在の問題は依然として深刻であるため、本申請において定員増を行ない、地域枠定員を維持する。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

地域医療に関する卒前教育は、医学部医学教育企画室、琉球大学病院地域医療部、および沖縄県地域医療支援センターが連携して資料1のとおり行っている。1年次に行う医学概論B（地域医療）、外来患者付添い実習にはじまり、3年次の離島地域病院実習（県内離島、北部地域の県立病院・診療所での実習）、4～5年次の地域医療実習（沖縄本島内の診療所にて在宅医療を含む地域医療臨床実習）、6年次の離島・へき地での臨床実習まで、全学年に渡って地域医療に関する講義・実習を導入している。さらに、問題解決型の講義・実習を学年縦断的に実施している。加えて、地域枠の学生に対しては、学年縦断的に実施する講義・実習への参加を促している。

定員変更後も、現在の教育方針を継続していく予定である。そして、琉球大学病院が中心となって関係医療機関、医師会、市町村、保健所等を含む行政機関、沖縄県地域医療支援センターと医学教育企画室が連携し、地域医療を含む医学教育の改革および地域枠学生の教育を行う予定である。

エ その他

（1）卒業後研修での取り組み

①初期臨床研修医に対して

- ・オリエンテーションにおいてBLS講習会を行い、2年次は離島・へき地医療研修（希望制）を実施する。

②後期専門研修医に対して

- ・目指す専門医資格に対応するプログラムや大学院社会人入学を利用できるローテート制度を設定する。
- ・大学院での専門医養成コースと連動させ、医療ニーズに対応した人材養成を実施する。
- ・地域における救急医療の態勢作りを踏まえ、救急医療に特化した救急専門医を養成するだけでなく、すべての医師に対する救急医療を重視し、地域連携とプライマリ救急医療を各診療科で教育する。

③医師の派遣・紹介の取り組み

- ・琉球大学病院に設置されている沖縄県地域医療支援センターを中心として、琉球大学医学部・診療科及び県内の各拠点病院と連携し、離島・へき地における医師の適正配置と個々人のキャリア構築と専門性の特化を一体化させた沖縄県地域枠キャリア形成プログラムを運用する。

④臨床研修指導医養成セミナー

R y u M I C の指導医を対象とした、臨床研修指導医養成セミナーを毎年開催している。

⑤女性医師定着策

ア) 職場環境の改善・整備

- ・大学内に、院内保育所を設置している。
- ・男性医師の理解を深め、男女協働参画の意識を高めるFDを随時実施している。
- ・職場復帰のための生涯教育・研修を、琉球大学病院キャリア形成支援センターや沖縄県地域医療支援センターが支援する。

- イ) 「琉球大学医学部女性医療人の会」の設立および女性医師支援事業の開始。
 ・ 沖縄県医師会の「沖縄県女性医師の会」と連携した「琉球大学医学部女性医療人の会」を設立した。女性医師支援の啓発シンポジウムを開催し、復帰医師支援研修プログラムを開始している。

(2) 入学者選抜段階における取組の推進

沖縄県の特徴である島嶼環境に即応した医療人の育成を図る。これまで琉球大学医学部開設以来、多くの医師を輩出してきたが、沖縄県の離島・へき地医療従事医師の希望者は少なく、引き続き離島・へき地医療への充実を図る予定である。

①地域を指定した入学者選抜（地域枠）

募集人員：14名（沖縄県に居住し、離島北部地域を除く沖縄県内の高等学校を卒業した者）

募集年度：平成27年度～

地域を指定した入学者選抜（離島・北部枠）

募集人員：3名（沖縄県に居住し、沖縄県の離島・北部地域の高等学校を卒業した者）

募集年度：平成27年度～

②入学者選抜方法

推薦入試により、「地域枠」（14名）、「離島・北部枠」（3名）の2つのカテゴリーに区分し、選抜する。

③地域枠および離島・北部枠学生のアドミッションポリシー

- 沖縄県の地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる人
- 地域の要請が高い診療科を選択し、診療科偏在の是正に貢献できる人
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人
- 自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる人
- 学習意欲の維持並びに自己学習ができる人
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶことができる人

地域枠学生においては、琉球大学医学部地域枠学生のアドミッションポリシーを意識・自覚した学生を選抜し、卒前教育において、医学教育企画室ならびに沖縄県地域医療支援センターが中心となり、卒後における自己の地域医療貢献のライフスタイル像を身につけさせ、卒後も、沖縄県地域医療支援センターが中心となり、常に自己啓発・生涯学習しながら医療実践する医師を育成する。

[参考：医学部医学科令和4年度入学定員]

事 項	一般選抜		推薦入学Ⅱ	計	第2年次編入学
	(前期日程)	(後期日程)			
医学部医学科	70人	25人	17人	112人	5人

④地元高等学校に対する取組

- ・高校生を対象としたオープンキャンパスを実施し、琉球大学医学部のアドミッションポリシー、医学部カリキュラム、教育・研究・診療環境、地域医療教育を説明し、在校生による医学部生活紹介、受験心得等の説明を行い、また卒業生からは、卒業後の初期臨床、進路、専門医になるための紹介等を行い、進路相談に応じている。
- ・県内高等学校長等との懇談会を年1回開催し、意見交換を行い、優秀な学生の入試受験を呼びかけている。
- ・県内高校の希望を受け、入試説明会を行っている。

琉球大学医学部医学科における地域医療に関する学部教育カリキュラムの概要(着色は地域枠学生を中心としたプログラム)

学年	形態	科目名	期間	場所	教育内容
1 年 次	講義	医学概論B (地域医療)	1回	琉球大学医学部臨床講義棟大講義室	地域医療の概要を講義し、地域医療に対する関心を刺激する。
	実習	外来患者付添い実習	1日	琉球大学病院	患者としての目線で医療や福祉の現場を見せることにより、将来の学習の動機づけを行う。
1 \n6	講義 実習	へき地・離島医療体験 (地域枠学生中心)	3日 ~ 5日	沖縄県立・公立の離島・へき地の 病院・診療所	事前学習会にて地域医療に必要な技能・態度に関する講義を行い、現地で実際に体験するとともに、振り返り・事後学習会にてさらに学びを深める。
2 年 次	講義	地域医療／プライマリ・ケア	9回	琉球大学医学部基礎講義実習棟	地域医療・プライマリ・ケアに関する講義を行い、その位置づけとプライマリ・ケア医の役割を認識する。地域医療に対する関心を維持する。
	実習	病院・福祉施設 体験実習	1日	実習協力病院・協力施設	幅広い医療・福祉の現場(療養型施設及び国立ハンセン病療養所)を見学し、社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解する。
3 年 次	実習	離島地域病院実習	5日	沖縄県立・公立の離島・へき地の 病院	離島・北部地域の病院で実習を行い、疾病と生活環境の関わりを理解し、地域住民の心理・社会的背景を知る。
4 年 次	実習	沖縄県福祉保健所施設見学実習	1日	沖縄県福祉保健所	福祉保健所施設等を見学実習し、疫学と予防医学を含め、環境との関わりを学ぶ。
	実習	救急車同乗実習	1日	那覇市内消防署	救急車に同乗し、救急活動の実際を体験的に知る。
4 \n5	実習	地域医療実習	5日	実習協力施設 (地域診療所、訪問看護ステーションなど)	地域の医療施設を見学実習し、その役割を理解する。
6 年 次	実習	離島・へき地でのクリニカル・クラクシップ (選択)	2~4 週間	離島・へき地の県立病院、診療所	離島・へき地診療所において診療参加型の実習を行い、離島・へき地における地域医療への理解を深め、地域医療に対するモチベーションを高める。

令和5年度
医学部入学定員増員計画

琉大戦略第7号
令和4年8月23日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人琉球大学
学長 西田 睦



「地域の医師確保等の観点からの令和5年度医学部入学定員の増加について（令和4年8月10日付け文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	上原キャンパス事務部学務課長 鈴木 極
	TEL	098-895-1030
	FAX	098-895-1092
	E-mail	igzjimcho@acs.u-ryukyu.ac.jp

大学名	国公立
琉球大学	国立

1. 現在(令和4年度)の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
112	5	0	697

↑
(収容定員計算用)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
(ア)入学定員	112	112	112	112	112	112	672
(イ)2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	117	117	117	117	112	697

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和5年度の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	5	0	625

↑
(収容定員計算用)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計
(ア)入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ)2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	100	625
(臨時的な指直で減員した場合、その人数)							

3. 令和5年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
112	5	0	637

↑
(収容定員計算用)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計
(ア)入学定員	112	100	100	100	100	100	612
(イ)2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	105	105	105	105	100	637
(臨時的な指直で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 12

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増(地域枠)	12
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増(研究医枠)	0
計	12

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 12

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	沖縄県	12
大学所在地以外の都道府県		
計		12

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R3地域枠定員 (※1)	R3貸与者数 (※2)	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R3とR4の貸与 者数のうち多い 方の数
沖縄県	12	17	12	17	17
					0
					0
					0
					0
					0
計	12	17	12	17	17

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和5年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和3年度に実施した地域枠学生(令和4年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
学校推薦型選抜Ⅱ	(i)推薦入試(指定校推薦を含む)	別枠(先行型)	17	12	高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考する。 ○共通テスト利用教科・科目(5教科7科目) ・国(国) ・地歴(世B、日B、地理B) ・公民(現社、倫・政経)から1数(数Ⅰ・数A)(数Ⅱ・数B) ・理(物理、化学、生物から2) ・外(英(リスニングを含む)) ○個別学力検査等 ・小論文 ・面接	次の(1)～(5)に該当する者(地域枠については、出願要件(2)を除く) (1)沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等(*)を令和2年4月1日以降に卒業した者及び令和4年3月に卒業見込みの者で学校長から推薦を受けた者 *「高等学校等」とは、高等学校、高等部を置く特別支援学校及び中等教育学校をいう。 (2)沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域(石垣市、宮古島市、久米島町)ならびに沖縄県本島北部地域(大宜味村、今帰仁村、本部町、名護市、宜野座村)に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者 (3)沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が賞与する奨学金の受給を希望する者 (4)人物、学力ともに優れ、健康で、高等学校等における学習成績概評がA段階(全体の学習成績の状況が4.3以上)の者 (5)合格した場合は、入学することを確約できる者	H21以前	
合計			17	12				

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

② 令和4年度に実施する地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
学校推薦型選抜Ⅱ	(i)推薦入試(指定校推薦を含む)	別枠(先行型)	17	12	高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考する。 ○共通テスト利用教科・科目(5教科7科目) ・国(国) ・地歴(世B、日B、地理B) ・公民(現社、倫・政経)から1数(数Ⅰ・数A)(数Ⅱ・数B) ・理(物理、化学、生物から2) ・外(英(リスニングを含む)) ○個別学力検査等 ・小論文 ・面接	次の(1)～(5)に該当する者(地域枠については、出願要件(2)を除く) (1)沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等(*)を令和3年4月1日以降に卒業した者及び令和5年3月に卒業見込みの者で学校長から推薦を受けた者 *「高等学校等」とは、高等学校、高等部を置く特別支援学校及び中等教育学校をいう。 (2)沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域(石垣市、宮古島市、久米島町)ならびに沖縄県本島北部地域(大宜味村、今帰仁村、本部町、名護市、宜野座村)に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者 (3)沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が賞与する奨学金の受給を希望する者 (4)人物、学力ともに優れ、健康で、高等学校等における学習成績概評がA段階(全体の学習成績の状況が4.3以上)の者 (5)合格した場合は、入学することを確約できる者	H21以前	出願要件は、認可後の要件を記入している。参考資料の入学者選抜要項には認可前の要件が記載されている。
合計			17	12				

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要(令和5年度)について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次に行う医学概論B(地域医療)、外来患者付添い実習にはじまり、2年次の療養型施設及び国立ハンセン病療養所訪問見学実習、3年次の離島地域病院実習(県内離島、北部地域の県立病院・診療所での実習)、4、5年次の地域医療実習(沖縄本島内の診療所にて在宅医療を含む地域医療臨床実習)、6年次の離島・へき地での参加型臨床実習まで、全学年に渡って、地域医療に関する講義、実習を導入している。

(参考:記入例)
1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■●を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②(過去に地域枠を設定したことがある場合)これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域枠による増員を開始し、全学年に渡って地域医療に関する講義・実習を導入するとともに、地域枠の学生に対しては他県の離島・へき地を訪問する機会を設けてきた。令和4年度までに201名の地域枠学生を確保し、そのうち92名が現在医師国家試験に合格して地域医療に貢献している。

(参考:記入例)
平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■●などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容(正規科目)について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修/選択の別		講義/実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1	医学概論B	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
1	外来患者付添い実習	全員	必修	必修	実習	1	H23
2	地域医療/プライマリ・ケア	全員	必修	必修	講義	9時間	H21以前
2	体験学習(療養型施設及び国立ハンセン病療養所訪問見学実習)	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3	離島地域病院実習	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
4	衛生学・公衆衛生学	全員	必修	必修	講義	58時間	H21以前
4	救急車同乗実習	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
4, 5	地域医療実習	全員	必修	必修	実習	5日	H21以前
6	離島・へき地でのクリニカル・クラクシップ	全員	選択	選択	実習	2～4週間	H21以前

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修/選択の別を「選択」とご記載ください。)
※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1~2行程度)	開始年度
1	地域医療実習	地域枠学生	なし	4日	地域医療に取り組む県外病院を見学し、他県の取り組みを学習する。	H22
2~5	地域医療を学ぶためのPBL チュートリアル	全員	なし	8回程度	小グループ内での討論を通して、地域医療に関する課題を自ら見出し、自己主導型学習を身につける。	H22
1~6	離島医療体験事	全員	あり	3日間	離島・へき地の医療を支える診療所及び中核病院にて実習を行うことに	R1
5~6	離島医療体験事業(強化型)	全員	あり	5日間	student doctorが離島・へき地の診療所及び中核病院にて参加型診療実習を行うことにより将来地域医療に従事する医師としての役割と責任を自覚させる。	R1

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和4年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。
 なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例:200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	(診療科の限定がある場合) その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
沖縄県	3	新入生		1,730,000	大学を卒業し、医師法(昭和23年法律第201号)第16条の2第1項で規定する病院のうちから規則で定める病院において同項に規定する臨床研修(以下「初期臨床研修」という。)を修了し、引き続き医師の専門性に関する研修(以下「専門研修」という。)を規則で定める期間修了した後、直ちに指定医療機関の医師として勤務した場合において、その引き続き勤務期間が当該資金の貸与を受けた期間に相当する期間の範囲内で規則で定める期間に達し	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	臨床検査、形成外科及びリハビリテーション科については、地域枠プログラムにおいて、県内の基幹施設の状況や指定医療機関勤務との兼ね合いから専門研修の診療科として選択できないこととしている。	
沖縄県	14	新入生		1,130,000	同上	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	同上	

(※1)○の場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
 ※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例:在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1~2に記入したもので、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)
 特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

令和4年度
(2022年度)

学 生 募 集 要 項

学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テスト を課す）

インターネットによる出願受付のみ

人 文 社 会 学 部	国際法政学科 人間社会学科 琉球アジア文化学科	
教 育 学 部	学校教育教員養成課程 学校教育教員養成課程	小学校教育コース 特別支援教育コース
理 学 部	物質地球科学科 海洋自然科学科	
医 学 部	医学科 保健学科	
工 学 部	工学科	



令和3年9月
琉球大学

新型コロナウイルス感染症の影響により、実施方法等に変更が生じた際には、
本学ホームページにて情報を速やかにお知らせします。

3. 募集人員及び推薦人員

学部名	学 科 等		募集人員	推薦人員		
人文社会学部	国 際 法 政 学 科		12名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内		
	人 間 社 会 科	哲 学 ・ 教 育 学 プ ロ グ ラ ム	5名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき3名以内		
		心 理 学 プ ロ グ ラ ム	8名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき5名以内		
		社 会 学 プ ロ グ ラ ム	8名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内		
	琉 球 ア ジ ア 文 化 学 科		6名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内		
	計		39名			
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	学 校 教 育 専 攻	10名 ① 沖縄県内地域指定推薦2名 ② 一般推薦8名	①1 高等学校等(定時制の課程を含む)につき2名以内 ②1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内	
				※①の県内地域指定に推薦した高校は, ②の一般推薦枠にも別に2名以内推薦可		
			教 科 教 育 専 攻	国 語 教 育 専 修	2名	1高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき, 令和2年度に卒業(修了)した者から1名, 令和3年度に卒業(修了)した者又は卒業(修了)見込みの者から1名, 計2名以内
				社 会 科 教 育 専 修	2名	1高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
				数 学 教 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
				理 科 教 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
				音 楽 教 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
				美 術 教 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
				保 健 体 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
				技 術 教 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
	生 活 科 学 教 育 専 修	2名		1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内		
	英 語 教 育 専 修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内			
	特別支援教育コース	特別支援教育専攻	特別支援教育専修	2名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内	
	計		32名			
理学部	物質地球科学	物 理 系	5名	制限なし		
		地 学 系	3名	制限なし		
	海洋自然科学	化 学 系	10名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき4名以内		
		生 物 系	1名 水産に関する学科のみ	制限なし		
	計		19名			

学部名	学 科 等		募集人員	推薦人員
医学部	医 学 科		5名 (注)	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき3名以内
	保 健 学 科		9名 うち専門高校・総合学科 卒業生枠1名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
	計		14名	
工学部	工 学 科	機 械 工 学 コ ー ス	11名 うち専門高校卒業生枠2名	制限なし
		エネ ル ギ ー 環 境 工 学 コ ー ス	7名 うち専門高校卒業生枠2名	
		電 気 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス	9名 うち専門高校卒業生枠1名	
		電 子 情 報 通 信 コ ー ス	7名 うち専門高校卒業生枠1名	
		社 会 基 盤 デ ザ イ ン コ ー ス	10名 うち専門高校卒業生枠2名	
		建 築 学 コ ー ス	10名 うち専門高校卒業生枠1名	
		知 能 情 報 コ ー ス	14名 うち専門高校卒業生枠3名	
	計		68名	
合 計			184名	

注：医学部医学科の募集人員については、予告1を参照してください。

実施学部・学科	医学部 医学科
募集人員	【申請が認可されない場合】 5名
	【申請が認められた場合】 地域枠 14名程度（※出願要件（2）除く） 離島・北部枠 3名程度
出願要件	<p>次の（1）～（5）に該当する者</p> <p>（1）沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等(*)を令和2年4月1日以降に卒業した者及び令和4年3月に卒業見込みの者で学校長から推薦を受けた者</p> <p>（2）沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域（石垣市、宮古島市、久米島町）ならびに沖縄県本島北部地域（大宜味村、今帰仁村、本部町、名護市、宜野座村）に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>（3）沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が貸与する奨学金の受給を希望する者</p> <p>（4）人物、学力ともに優れ、健康で、高等学校等における全体の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>（5）合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>※ 申請が認められた場合、離島・北部枠に該当する高等学校出身者は、地域枠での出願はできません。</p> <p>※ 沖縄県からの奨学金(医師修学資金)の概要 本選抜での入学者全員に対し、沖縄県が学費、生活費など修学に必要な資金を貸し付けます。入学者は、卒業までの6年間奨学金を受給する必要があります。 大学卒業後は、沖縄県地域枠キャリア形成プログラムのもとで原則として琉球大学病院にて臨床研修医として勤務し、その後は沖縄県知事が指定する医療機関に医師として臨床研修を合せて9～13年間勤務していただきます（うち離島・北部の医療機関に4年間）。この場合、奨学金貸与額の全額の返還が免除されます。 (参考) 沖縄県地域枠キャリア形成プログラム(http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp/uploads/2021/04/6fcfef2e033986bd6ce59acb86b619b9-1.pdf)</p>
選抜方法等	<p>高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考します。</p> <p>○共通テスト利用教科・科目（5教科7科目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国（国） ・地歴（世B、日B、地理B） ・公民（現社、倫・政経） ・数（数Ⅰ・数A） （数Ⅱ・数B） ・理（物理、化学、生物から2） ・外（英） <p>} から1</p> <p>○個別学力検査等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小論文 ・面接

*「高等学校等」とは、高等学校、高等部を置く特別支援学校及び中等教育学校をいう。

※「経済財政運営と改革の基本方針2018」による増員申請が認められた場合、申請の結果について、本学ホームページ等で公表します（予告1参照）

5. 実施教科・科目等及び配点

【共通テストの利用教科・科目名】欄

1. 各学部・学科等共通

- (1) 共通テストの「地理歴史」及び「公民」は、この2教科を同一の試験時間において実施しますが、出題教科としては、それぞれ独立した教科です。
- (2) 「地理歴史」・「公民」及び「理科」の試験時間において2科目を受験する場合は、解答順に前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」とします。
- (3) 本学が指定している教科、科目以外を第1解答科目としている場合は、その科目を利用できなくなり、出願できません。
- (4) 「理科」の「基礎を付した科目」とは「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を指します。また、「基礎を付していない科目」とは「物理」、「化学」、「生物」、「地学」を指します。同一名称を付した科目、すなわち物理基礎と物理、化学基礎と化学、生物基礎と生物、地学基礎と地学を選択することは認めません。
- (5) 「英語」は、リーディングとリスニングが一体型となります。

2. 共通テストの利用教科・科目の得点の採用について

本学が指定する共通テストの利用教科・科目数	本学の指定した科目数を超過して受験した場合の取扱い
「地理歴史」・「公民」から1科目を選択する。	「地理歴史」・「公民」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。
「数学」から1科目を選択する。	「数学」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち、高得点の科目を採用します。
「理科」の「基礎を付していない科目」から1科目を選択する。	「理科」の「基礎を付していない科目」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。
「理科」の「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目を選択する。	①「理科」の「基礎を付した科目」から2科目並びに「基礎を付していない科目」から1科目の計3科目を受験した場合は、「基礎を付した科目(2科目の合計点)」と「基礎を付していない科目」のうち得点の高い方を採用します。 ②「理科」の「基礎を付していない科目」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。

3. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

4. 外国語「英語」の配点比率について

- (1) 共通テストにおける外国語（英語）の【リーディング】と【リスニング】の配点比率については、原則として全学部「1：1」とし（教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 社会教育専修のみ「3：1」）、その得点合計を各学部等の定める外国語の配点に換算して利用します。
- (2) 【リスニング】を受験しなかった場合の取扱いについては、【リスニング】は0点扱いとし、【リーディング】の得点のみを利用します。
- (3) 受験上の配慮によって【リスニング】受験を免除された者については【リーディング】の得点を利用して換算します。

【前年度以前の大学入試センター試験の成績利用について】

本学では、令和4年度入学選抜において、前年度の共通テスト及び前年度より以前の大学入試センター試験の成績は利用しません。

入学者選抜の実施教科・科目等

学部・学科等名	大学入学共通テストの利用教科・科目名			個別学力検査等	大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等											備考		
	教科	科目名等		科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	推薦書	調査書		志願理由書	配点合計
医学部	医学科	国 地歴 公民 教 理 外	国 世B, 日B, 地理B 現社, 倫・政経 数I・数A 数II・数B 物理, 化学, 生物から2 英 (5教科7科目)	小論文 面接	共通テスト	200	*100		200	200	300						1000	
					個別学力検査等							300	200	面接の参考とする			500	
					計	200	*100		200	200	300	300	200				1500	
医学部	保健学科	国 地歴 公民 教 理 外	国 世B, 日B, 地理B 現社, 倫・政経 数I・数A 数II・数B 物理, 化学, 生物から2 英 (5教科7科目)	面接 調査書	共通テスト	150	*50		100	100	150							550
					個別学力検査等						250		面接の参考とする	300	面接の参考とする	550		
					計	150	*50		100	100	150	250		300		1100		
工学部	工学科	数 理 外	数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1(注) [計2科目] 物理 化基, 生基, 地基から2 [計3科目] 又は 化学, 生物, 地学から1 [計2科目] 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科5科目又は3教科6科目)	面接 推薦書 調査書 志願理由書	共通テスト				200	200	200							600
					個別学力検査等						200		50	100	50	400		
					計				200	200	200	200		50	100	50	1000	

(注) 数学の「簿記・会計」「情報関係基礎」で選択解答できる者は、高等学校等でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)の者に限る。

○配点に*印を付してある教科は、選択教科を表す。

対し、当該個人情報について、その利用の目的若しくは方法の制限その他必要な制限を付し、かつその漏えい防止その他個人情報の適切な管理のために必要な措置を講ずることを求めます。

(3) 出願書類の不備等がある場合、その訂正・補完を速やかに行っていただくため、本学を受験されること及び出願書類に不備等があることを、保護者又は高等学校等に通知する場合があります。

(4) 本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報は、上記及び独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律第9条に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

16. 入試情報開示に関する事項

(1) 個別学力検査等の採点・評価基準

①人文社会学部

国際法政学科	小論文	○理解力、考察力、論理的思考力、記述力、完結度等を評価します。 ○誤字、脱字及び指定の字数の過不足は減点の対象となります。
	面接	○意欲、目的意識、適性、表現力等を評価します。
	調査書	○総合的な学習を含む学業成績を評価します。
	推薦書	○受験生の人物、学校生活状況、学業成績、課外活動・特技・資格等を評価します。面接の評価に含めます。
	志願理由書	○進学のための目的、将来の計画及び長所・特技等を評価します。面接の評価に含めます。
人間社会学科	小論文	○理解力、考察力、論理的思考力、記述力、構成力等を評価します。 ○誤字、脱字及び指定の字数の過不足は減点の対象となります。
	面接	○意欲、目的意識、適性、表現力等を評価します。
	調査書	○学業成績を評点化するほか、特別活動の記録や総合的な学習の時間の内容・評価、部活動やボランティア活動、取得資格、検定等など、調査書の他の記載事項も本学部のアドミッション・ポリシーに照らして確認し、面接の参考資料とします。
	推薦書	○学業、人物、課外活動等について、面接の基礎資料とし、面接の評価に含めます。
	志願理由書	○目的意識、意欲、志望に至った経緯、記述力等について面接の基礎資料とし、面接の評価に含めます。
琉球アジア文化学科	小論文	○理解力、考察力、論理的思考力、記述力、完結度等を評価します。 ○誤字、脱字及び指定の字数の過不足は減点の対象となります。
	面接	○意欲、目的意識、適性、表現力等を評価します。
	調査書	○「学習成績の状況」を点数化します。
	推薦書	○学業、課外活動及び特技等を考慮して総合的に評価し、面接の評価にも含めます。
	志願理由書	○志願理由・動機、将来計画及び長所・特技・アピール点等を総合的に評価し、面接の評価に含めます。

②教育学部
学校教育教員養成課程

小学校教育コース	学校教育専攻	面接	○小学校教育に対する意欲・関心をみます。 ○小学校教員としての適性をみます。 ○コミュニケーション能力をみます。
		小論文	○教育や子どもに関する知識・理解をみます。 ○小学校教員として必要な思考力・判断力・表現力をみます。 ○小学校教育に対する意欲・関心をみます。
		調査書	○面接時の参考にします。
		推薦書	○面接時の参考にします。
		志願理由書	○面接時の参考にします。
	国語教育専修	口頭試問を含む面接	○現代文・古文・漢文等の著名かつ基礎的な作品（の一部）を提示し、読解力や思考力をみます。 ○意欲，目的意識，適性，表現力等をみます。
		小論文	○国語教育や言語の問題等に関するまとまった分量の文章を読んだうえで、その内容を正確に把握していることを前提に、しっかりとした根拠に基づいて自らの意見を的確に論述・表現できる能力を求めます。
		調査書	○学習成績や就学状況等を確認できる資料として、面接の重要な資料とします。
		推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。
		志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。
	社会科教育専攻	面接	○小学校教育に対する意欲・関心・適性をみます。 ○自分の意見をまとめ、適切に表現する力をみます。 ○教育や子どもに関する問題について自分なりの視点で分析し、議論する力をみます。
		小論文	○小学校教育に対する意欲・関心・適性をみます。 ○理解力，分析力，考察力，論理的な思考力および記述力を評価します。
		調査書	○「学習成績の状況」等について面接の参考資料とします。
		推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びについて学校側の認識を示す資料として、面接の重要な資料とします。
		志願理由書	○志望動機・将来計画・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。
	数学教育専修	口頭試問を含む面接	○小学校教師としての適性，および数学についての理解の程度と論理的思考力について評価します。
		調査書	○学習成績や修学状況等を確認できる資料として、面接時の参考にします。
		推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接時の参考にします。
		志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接時の参考にします。